

講義録レポート

講義録コード

19-22-5-203-01

講 座	建設業経理士検定講座	科目①	財務分析
目標年	2023年3月合格目標	科目②	的中答練
コース	1 級コース（お試し視聴）	回 数	1 回
		通算回数	1 回

収録日	2022年 12月 13日		
講師名	庄司 直貴 講師	内 板書 枚数	枚
		補 補助レジュメ 枚数	枚
		其 其他 ()	枚

講義構成	答練 90 分 → 解説 75 分		
実施テスト	有 ・ 無		
対応テスト	<ミニテスト>	()	第 回
	<答練・演習>	(的中答練)	第 1 回
使用教材	●基本テキスト		
	●レジュメ		
	●その他 []		
配付 教材・資料	●教材(テキスト・問題集) ()	講義録添付 (有・無)	
	●補助レジュメ () 枚	講義録添付 (有・無)	
	●その他 () 枚	講義録添付 (有・無)	
備考	～DVD・Web受講生各位～ 黒板を写すカメラのスイッチング(切替)は講師が行っている都合上、映像中に一部講師が画面に映らない場合もございますが、故障ではありません。音声及び本講義録をご参照の上、ご受講ください。		

この講義録の著作権は、TAC株式会社または権利者に帰属しており、当社に無断で複製、改変、転載、転用、インターネット上にアップロードする等の著作権を侵害する行為は法律によって禁止されています。

TAC建設業経理士検定講座

試験概要

第 1 問	理論記述	20 点 (20 分)	} ×60% = 21 点 (30 分)
第 2 問	理論穴埋または正誤判定	15 点 (10 分)	
第 3 問	P/L、B/S 項目推定	15 点 (15 分)	} ×80% = 52 点 (50 分)
第 4 問	生産性分析 損益分岐点分析	20 点 (10 分)	
第 5 問	指標 10 個 + 穴埋	30 点 (25 分)	

計 73 点

第 1 問

～分析について説明

- ・定義
- ・具体的な分析指標の名称 → ～に対する～の割合 → ～を示すもの
- ・値が大きい (小さい) ほうがいい

第 3 問

・関連データを算式にする

・以下の算式の数値のうち、当初不明なものは太字で示している。算式中、不明な数値が一つしかない自己資本経常利益率を起点として解いていく (負債比率、固定負債比率、未成工事収支比率も不明な数値が一つしかないので先に求めてもよい)。

$$\text{完・工・経・率 } 0.018 = \frac{\text{経・利 } 10,800}{\text{完・工}} \quad \therefore \text{②完・工} = 600,000$$

$$\text{営・率 } 0.0195 = \frac{\text{営・利}}{\text{完・工 } 600,000} \quad \therefore \text{⑫営・利} = 11,700$$

$$\text{負・比 } 1.625 = \frac{\text{負債合計}}{\text{自・資 } 200,000} \quad \therefore \text{④負債合計} = 325,000$$

$$\text{未・工・収・率 } 0.8 = \frac{\text{未・工・受 } 111,400}{\text{未・工・支}} \quad \therefore \text{⑦未・工・支} = 139,250$$

$$\text{固・負・率 } 0.2325 = \frac{\text{固・負}}{\text{自・資 } 200,000} \quad \therefore \text{⑨固・負} = 46,500$$

$$\text{自・資・経・率 } 0.054 = \frac{\text{経・利}}{\text{自・資 } 200,000} \quad \therefore \text{①経・利} = 10,800$$

$$\text{受・勘・回・期 } 3.4 = \frac{\text{受・手 } 70,110 + \text{A}}{\text{完・工 } 600,000 \div 12} \quad \therefore \text{③A} = 99,890$$

$$\text{現・預・手・月 } 0.03 = \frac{\text{現・預}}{\text{完・工 } 600,000 \div 12} \quad \therefore \text{⑥現・預} = 1,500$$

$$\text{運・資・保・月} = \frac{\text{流・資} - \text{流・負}}{\text{完・工 } 600,000 \div 12} \quad \therefore \text{④0.67}$$

⑤総資本＝負債合計 325,000＋自己資本 200,000＝525,000

⑧B＝差し引きで 50,490

⑩流・負＝差し引きで 278,500

⑪C＝差し引きで 4,220

⑬D＝差し引きで 1,910

第4問

$$\text{損益分岐点完成工事高} = \frac{\text{固定費}}{\text{限界利益率}}$$

$$\text{目標利益達成完成工事高} = \frac{\text{固定費} + \text{目標利益}}{\text{限界利益率}} \quad \dots \text{目標利益が「金額」で与えられている場合}$$

$$\text{目標利益達成完成工事高} = \frac{\text{固定費}}{\text{限界利益率} - \text{目標利益率}} \quad \dots \text{目標利益が「率」で与えられている場合}$$

安全余裕率は分子に注意！！

「分子に安全余裕の金額（分母に実際完成工事高）」…第17回、第20回、第21回、第26回、第28回、
第30回

「分子に実際完成工事高（分母に損益分岐点完成工事高）」…第23回

建設業の慣行的な区分における変動費：完成工事原価＋支払利息を除いた営業外費用－営業外収益

建設業の慣行的な区分における固定費：販売費及び一般管理費＋支払利息

$$\text{建設業の慣行的な変動費と固定費を前提とした損益分岐点比率} = \frac{\text{販売費及び一般管理費} + \text{支払利息}}{\text{完成工事総利益} + \text{営業外損益} + \text{支払利息}}$$

$$\text{損益分岐点完成工事高} = \text{完成工事高} \times \text{上記で求めた損益分岐点比率}$$

第5問

諸比率の覚え方

$$\sim\text{負債比率} = \frac{\sim\text{負債}}{\text{自己資本}}$$

$$\sim\text{月数、}\sim\text{月商倍率、}\sim\text{回転期間} = \frac{\sim}{\text{完成工事高} \div 12}$$

$$\sim\text{回転率} = \frac{\text{完成工事高}}{\sim}$$

重要

収益性：総資本事業利益率、経営資本営業利益率、自己資本当期純利益率

流動性：当座比率、立替工事高比率、未成工事収支比率

健全性：金利負担能力、固定比率、固定長期適合比率

・未成工事収支比率・・・よく出題される

現在進行中の工事に関する固有の支払能力（資金の立替状況）を示す。

$$\frac{\text{未成工事受入金}}{\text{未成工事支出金}} \times 100 \quad (\text{値は大きいほうがいい})$$

建設業経理士検定試験 財務分析主要比率表

基本比率		関連比率	
比率名	算式	比率名	算式
1. 総資本経常利益率	$\frac{\text{経常利益}}{\text{総資本(※)}} \times 100$	[1] 総資本営業利益率	$\frac{\text{営業利益}}{\text{総資本(※)}} \times 100$
		[2] 総資本事業利益率	$\frac{\text{事業利益}}{\text{総資本(※)}} \times 100$
		[3] 総資本 当期純利益率	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{総資本(※)}} \times 100$
2. 経営資本 営業利益率	$\frac{\text{営業利益}}{\text{経営資本(※)}} \times 100$	[4] 総資本売上 総利益率	$\frac{\text{売上総利益}}{\text{総資本(※)}} \times 100$
3. 自己資本 当期純利益率	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{自己資本(※)}} \times 100$	[5] 自己資本 事業利益率	$\frac{\text{事業利益}}{\text{自己資本(※)}} \times 100$
		[6] 自己資本 経常利益率	$\frac{\text{経常利益}}{\text{自己資本(※)}} \times 100$
		[7] 資本金経常利益率	$\frac{\text{経常利益}}{\text{資本金(※)}} \times 100$
収 益 性 比 率	4. 完成工事高 経常利益率	[8] 完成工事高 総利益率	$\frac{\text{完成工事総利益}}{\text{完成工事高}} \times 100$
	5. 完成工事高 キャッシュ・フロー (キャッシュ・フロー対 売上高比率)	[9] 完成工事高 営業利益率	$\frac{\text{営業利益}}{\text{完成工事高}} \times 100$
		[10] 完成工事高 一般管理費率	$\frac{\text{販売費及び一般管理費}}{\text{完成工事高}} \times 100$
6. 損益分岐点 完成工事高	$\frac{\text{固定費}}{1 - \frac{\text{変動費}}{\text{完成工事高}}} \quad (\text{円})$		
7. 損益分岐点比率	$\frac{\text{損益分岐点の完成工事高}}{\text{実際(あるいは予定)の完成工事高}} \times 100$	[11] 損益分岐点比率 (別法)	$\frac{\text{販売費及び一般管理費} + \text{支払利息}}{\text{完成工事総利益} + \text{営業外収益} - \text{営業外費用} + \text{支払利息}} \times 100$
		[12] 安全余裕率	$\frac{\text{実際(あるいは予定)の完成工事高}}{\text{損益分岐点の完成工事高}} \times 100$
			あるいは $\frac{\text{安全余裕額}}{\text{実際(あるいは予定)の完成工事高}} \times 100$

	基本比率		関連比率	
	比率名	算式	比率名	算式
流動性比率	8. 流動比率	$\frac{\text{流動資産}-\text{未成工事支出金}}{\text{流動負債}-\text{未成工事受入金}} \times 100$	[13] 流動比率 (別法)	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
	9. 当座比率	$\frac{\text{当座資産}}{\text{流動負債}-\text{未成工事受入金}} \times 100$	[14] 当座比率 (別法)	$\frac{\text{当座資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
	10. 立替工事高比率	$\frac{\text{受取手形}+\text{完成工事未収入金}+\text{未成工事支出金}-\text{未成工事受入金}}{\text{完成工事高}+\text{未成工事支出金}} \times 100$	[15] 未成工事収支比率	$\frac{\text{未成工事受入金}}{\text{未成工事支出金}} \times 100$
	11. 流動負債比率	$\frac{\text{流動負債}-\text{未成工事受入金}}{\text{自己資本}} \times 100$	[16] 流動負債比率 (別法)	$\frac{\text{流動負債}}{\text{自己資本}} \times 100$
	12. 運転資本保有月数	$\frac{\text{流動資産}-\text{流動負債}}{\text{完成工事高} \div 12}$ (月)	[17] 必要運転資金 月商倍率	$\frac{\text{必要運転資金}}{\text{完成工事高} \div 12}$ (月)
	13. 営業キャッシュ・フロー 対流動負債比率	$\frac{\text{営業キャッシュ・フロー}}{\text{流動負債} (\%) } \times 100$	[18] 現金預金手持月数	$\frac{\text{現金預金}}{\text{完成工事高} \div 12}$ (月)
			[19] 受取勘定滞留月数 (受取勘定月商倍率)	$\frac{\text{受取手形}+\text{完成工事未収入金}}{\text{完成工事高} \div 12}$ (月)
			[20] 完成工事未収入金 滞留月数	$\frac{\text{完成工事未収入金}}{\text{完成工事高} \div 12}$ (月)
			[21] 棚卸資産滞留月数	$\frac{\text{棚卸資産}}{\text{完成工事高} \div 12}$ (月)
健全性比率	14. 自己資本比率	$\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} \times 100$	[22] 借入金依存度	$\frac{\text{短期借入金}+\text{長期借入金}+\text{社債}}{\text{総資本}} \times 100$
	15. 負債比率	$\frac{\text{流動負債}+\text{固定負債}}{\text{自己資本}} \times 100$	[23] 有利子負債 月商倍率	$\frac{\text{有利子負債}}{\text{完成工事高} \div 12}$ (月)
			[24] 負債回転期間	$\frac{\text{流動負債}+\text{固定負債}}{\text{売上高} \div 12}$
	16. 固定負債比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{自己資本}} \times 100$	[25] 純支払利息比率	$\frac{\text{支払利息}-\text{受取利息}+\text{ひ配当金}}{\text{完成工事高}} \times 100$
	17. 固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}} \times 100$	[26] 金利負担能力 (インフラストラクチャ・レバレッジ)	$\frac{\text{営業利益}+\text{受取利息}+\text{ひ配当金}}{\text{支払利息}}$ (倍)
	18. 固定長期適合比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{固定負債}+\text{自己資本}} \times 100$	[27] 固定長期適合比率 (別法)	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{固定負債}+\text{自己資本}} \times 100$
	19. 配当性向	$\frac{\text{配当金}}{\text{当期純利益}} \times 100$	[28] 配当率	$\frac{\text{配当金}}{\text{資本金}} \times 100$

	基本比率		関連比率	
	比率名	算式	比率名	算式
活動性比率	20. 総資本回転率	$\frac{\text{完成工事高}}{\text{総資本 (※)}} \text{ (回)}$		
	21. 経営資本回転率	$\frac{\text{完成工事高}}{\text{経営資本 (※)}} \text{ (回)}$		
	22. 自己資本回転率	$\frac{\text{完成工事高}}{\text{自己資本 (※)}} \text{ (回)}$		
	23. 棚卸資産回転率	$\frac{\text{完成工事高}}{\text{棚卸資産 (※)}} \text{ (回)}$		
	24. 固定資産回転率	$\frac{\text{完成工事高}}{\text{固定資産 (※)}} \text{ (回)}$	[29] 受取勘定回転率	$\frac{\text{完成工事高}}{(\text{受取手形} + \text{完成工事未収入金}) (※)} \text{ (回)}$
			[30] 支払勘定回転率	$\frac{\text{完成工事高}}{(\text{支払手形} + \text{工事未払金}) (※)} \text{ (回)}$
(上記の各々に対する回転期間を含む)				
生産性比率	25. 職員1人当たり完成工事高	$\frac{\text{完成工事高}}{\text{総職員数 (※)}} \text{ (円)}$	[31] 技術職員1人当たり完成工事高	$\frac{\text{完成工事高}}{\text{技術職員数 (※)}} \text{ (円)}$
	26. 職員1人当たり付加価値(労働生産性)	$\frac{\text{完成工事高} - (\text{材料費} + \text{外注費})}{\text{総職員数 (※)}} \text{ (円)}$	[32] 付加価値率	$\frac{\text{完成工事高} - (\text{材料費} + \text{外注費})}{\text{完成工事高}} \times 100$
	27. 職員1人当たり総資本(資本集約度)	$\frac{\text{総資本 (※)}}{\text{総職員数 (※)}} \text{ (円)}$	[33] 労働装備率	$\frac{(\text{有形固定資産} - \text{建設仮勘定}) (※)}{\text{総職員数 (※)}} \text{ (円)}$
			[34] 設備投資効率	$\frac{\text{完成工事高} - (\text{材料費} + \text{外注費})}{(\text{有形固定資産} - \text{建設仮勘定}) (※)} \times 100$
			[35] 資本生産性(付加価値対固定資産比率)	$\frac{\text{完成工事高} - (\text{材料費} + \text{外注費})}{\text{固定資産 (※)}} \times 100$
成長性比率	28. 完成工事高増減率	$\frac{\text{当期完成工事高} - \text{前期完成工事高}}{\text{前期完成工事高}} \times 100$	[36] 付加価値増減率	$\frac{\text{当期付加価値} - \text{前期付加価値}}{\text{前期付加価値}} \times 100$
	29. 営業利益増減率	$\frac{\text{当期営業利益} - \text{前期営業利益}}{\text{前期営業利益}} \times 100$	[37] 経常利益増減率	$\frac{\text{当期経常利益} - \text{前期経常利益}}{\text{前期経常利益}} \times 100$
	30. 総資本増減率	$\frac{\text{当期末総資本} - \text{前期末総資本}}{\text{前期末総資本}} \times 100$	[38] 自己資本増減率	$\frac{\text{当期末自己資本} - \text{前期末自己資本}}{\text{前期末自己資本}} \times 100$

注1. 算式によって求められた比率の単位は、() 書によって特記したものを除き、すべて%である。

2. 完成工事高は、建設業による売上高を意味し、兼業売上高を含まない。

3. (※)を付した項目は、原則として期中平均値を使用する。

4. 下記の項目は、原則として、次のようにして求めたものをいう。

(1) 経営資本＝総資本－(建設仮勘定＋未稼働資産＋投資資産＋繰延資産＋その他営業活動に直接参加していない資産)

(2) 当座資産＝現金預金＋〔受取手形(割引分、裏書分を除く)＋完成工事未収入金－それらを対象とする貸倒引当金〕＋有価証券

(3) 棚卸資産＝未成工事支出金＋材料貯蔵品

(4) 支払利息＝借入金利息＋社債利息＋その他他人資本に付される利息

(5) 受取利息及び配当金＝受取利息＋有価証券利息＋受取配当金

(6) 事業利益＝経常利益＋(4)に規定する支払利息

(7) 安全余裕額＝実際(あるいは予定)の完成工事高－損益分岐点の完成工事高

(8) 総職員数＝技術職員数＋事務職員数

(9) 必要運転資金＝受取手形＋完成工事未収入金＋未成工事支出金－支払手形－工事未払金－未成工事受入金

(10) 純キャッシュ・フロー＝当期純利益(税引後)±法人税等調整額＋当期減価償却実施額±引当金増減額－剰余金の配当の額

(11) 営業キャッシュ・フロー＝キャッシュ・フロー計算書上の「営業活動によるキャッシュ・フロー」に掲載される金額

ただし、キャッシュ・フロー計算書を作成していない場合には「経常利益＋減価償却実施額－法人税等＋貸倒引当金増加額－売掛債権増加額＋仕入債務増加額－棚卸資産増加額＋未成工事受入金増加額」で代用する。

(12) 有利子負債＝短期借入金＋長期借入金＋社債＋新株予約権付社債＋コマーシャル・ペーパー

(13) 自己資本＝純資産額

(14) 生産性比率及び成長性比率における「付加価値」の計算は、労務外注費を外注費として扱う。